

1. 基本情報						
事務事業番号	02187	事務事業名	婦人防火協会運営事業	担当部		
政策名	002	くらし(みどりあふれる快適で暮らし続けたいまちづくり)			担当課	消防本部予防課
施策名	005	危機管理・防災力の充実と防災意識の向上			グループ	予防係
基本事業名	002	自助・共助を主体とした地域防災力の強化			内線番号	4506
予算科目目	会計	一般会計		事業期間	単年度のみ	
	款	09	消防費		単年度繰返(開始年度 ~)	
	項	01	消防費		期間限定複数年度(~)	
	目	01	常備消防費		根拠法令・条例等	
評価区分	標準評価	評価対象	1次評価	関連計画		

2. 事務事業の概要・目的・指標<Do>

(1) 事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細を記述)
 霧島市女性防火協会への運営補助を行っている。同協会は、霧島市消防出初式や消防フェスタに積極的に参加し、市民に対し防火防災意識の高揚を図るため啓発活動を行っているところである。消防フェスタ時には、住宅用火災警報器の設置および維持管理の推進、また全国火災予防運動期間中には、市内全域において火災予防広報活動を実施している。更に鹿児島県婦人防火クラブ連絡協議会運営委員会に出席し、県内の防火に関する女性クラブ等の連絡調整も行っている。

活動指標(事務事業の活動量)	単位	平成30年度(実績)	平成31年度(見込)	令和2年度(見込)	令和3年度(見込)
ア 火災予防広報及び住宅用火災警報器普及活動	回	19	20	24	21
イ 消防学校研修への参加人員	人	6	7	0	7
ウ					

(2) 事務事業の目的

対象(誰、何を対象にしているのか)	対象指標(左記対象の大きさを表す指標)	単位	平成30年度(実績)	平成31年度(見込)	令和2年度(見込)	令和3年度(見込)
ア 女性防火協会	女性防火協会会員数	人	1,104	1,250	1,105	1,260
イ						
ウ						

意図(対象をどうしたいのか)	成果指標(左記意図の達成度を表す指標)	単位	平成30年度(実績)	平成31年度(目標)	令和2年度(目標)	令和3年度(目標)
ア 住宅用火災警報器の普及活動	住宅用火災警報器の設置率	%	85.30	92	88.40	93
イ 防火意識が身につく	行事等に対する会員の出席率	%	84	85	93	87
ウ						

(3) 総合計画との関係

基本事業の目的、取組方針(総合計画より)
 地域の連帯感や防災意識の高揚を図るため、出前講座や防災訓練等を通じて、子どもを含む幅広い年齢層に対して、災害時の対応行動や防災知識の普及啓発を行うなど、防災対策の充実を図ります。
 また、消防団員の高齢化等に伴い、消防団員の確保が喫緊の課題となっていることから、特に、若者や女性の消防団への加入促進等を通じ、担い手の確保と消防団活動の活性化を図ります。
 さらに、がけ地に近接するなど、危険な場所にある住宅の移転促進を図るため、移転に関する支援制度の周知に努めます。

3. 前年度の評価表に記載した課題

平成31年度の改善改革の内容(取り組むべき課題)
 各種行事等に対する出席率を増やすことについては、今年度についても強く呼びかけ、各地域の防災意識の向上に努めなければならない。また、一般住宅において住宅用火災警報器の設置義務化から10年が過ぎてきているため、日頃の点検方法、電池切れ等を含む維持管理に関して、広報等を積極的に行う必要がある。

4. 事業費の推移

事業費	単位	30年度決算	31年度		2年度当初予算	3年度計画
			当初予算	決算		
国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
県支出金	千円	0	0	0	0	0
地方債	千円	0	0	0	0	0
その他	千円	0	0	0	0	0
一般財源	千円	43	44	41	44	44
事業費	千円	43	44	41	44	44

5. 平成31年度の実績及び成果

(1) 平成31年度の実績(取組) <取組内容を数値等により具体的に記載>
 平成31年度における霧島市女性防火協会の会員数は1,105名である。
 11月に開催された消防フェスタでは17名が参加し、住宅用火災警報器の設置維持状況についてのアンケートの実施や火災予防についての広報等を行い啓発活動を実施した。
 令和元年3月1日からの春の全国火災予防運動期間中に各地区の会員7名が4日間に分けて霧島市7地区で火災予防広報を実施した。

(2) 平成31年度の成果 <左記の実績(取組)による成果を記載>
 春の火災予防週間や消防フェスタ等における火災予防広報、住宅用火災警報器の設置及び維持管理の推進に対する広報を実施した。

事務事業 番号	02187	事務 事業名	婦人防火協会運営事業	担当部	
				担当課	消防本部予防課

6. 振り返り <SEE (check) >		
A 目的 妥当 性	この事業の目的は、基本事業の目的、取組方針に結びついていますか？	・この事業をなぜ市が行わなければならないですか？ ・税金を投入して達成する目的ですか？
	結びついている	市が実施すべき事業又は実施しなければならない事業である
	間接的に結びついている	市が実施することは妥当である
	結びついていない	見直す必要がある
B 有効 性	成果が向上する余地（可能性）はありませんか？	廃止・休止の影響はありませんか？
	向上する余地はかなりある	影響がある
	向上する余地はある程度ある	影響はある程度ある
	向上する余地はほとんどない	影響はほとんどない
C 効率 性	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、事業費を削減できませんか？ ・補助金など、交付先に働きかけて、市の負担を削減できませんか？	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、人件費（延べ業務時間）を削減できませんか？ ・職員以外の対応や委託により人件費を削減できませんか？
	削減できない	削減できない
	削減する余地はある程度ある	削減する余地はある程度ある
	削減できる	削減できる
D 公 平 性	事務事業の内容が一部の受益者に偏っていませんか？ また、受益者負担の公平性が確保されていますか？	
	公平・公正である	
	見直す必要がある	
総合評価判定基準		総合評価
A:継続して取り組むことが適当（やり方改善含む。） B:事業規模・内容・実施主体の見直しの検討 C:事業の統合、休・廃止の検討		A
		理由 各地区の会員が広報等の活動を行うことで、火災予防などに関心を持ってもらいやすく、身近に感じてもらうことができる。 結果として霧島市全体の防火意識の高揚につながり、安心安全な街づくりに繋がっている。

7. 1次評価結果 <PLAN (Action - Plan) > (組織決定)		【参考】前年度の改革改善の方向性 << 継続・やり方改善 >>			
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の事業 方向性 (成果)	拡 充			
		維 持		レ	
		縮 小			
		休廃止（統合含む）			
			皆 減	縮 小	維 持
					拡 大
コスト投入（予算）の方向性					
(2) 令和 2年度の改革改善の内容 (取り組むべき課題)	各種事業に対する出席率を増やすことについては、今年度についても強く呼びかけ、各地域の防災意識の向上に努めなければならない。 また、一般住宅において住宅用火災警報器の設置義務化から11年が過ぎているため、日頃の点検方法・電池切れ等を含む維持管理に関して、広報等を積極的に行う必要がある。				
(3) 令和 3年度の方向性 (具体的な取組)	鹿児島県婦人防火クラブ主催の研修会にて、防火、防災の知識を深めてもらい、各地域への広報、報告等を実施してもらう。 住宅用火災警報器について設置・維持管理の重要性を理解したうえで、各種催しや各地域において周知してもらい、市民全体の認識を高めてもらう。				

8. 2次評価結果 (担当部長評価)		評価者				職・氏名	
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の事業 方向性 (成果)	拡 充					
		維 持					
		縮 小					
		休廃止（統合含む）					
			皆 減	縮 小	維 持		拡 大
							コスト投入（予算）の方向性
(2) 総評							

1. 基本情報						
事務事業番号	02188	事務事業名	幼少年消防クラブ連絡協議会運営事業	担当部		
政策名	002	くらし(みどりあふれる快適で暮らし続けたいまちづくり)		担当課	消防本部予防課	
施策名	005	危機管理・防災力の充実と防災意識の向上		グループ	消防設備係	
基本事業名	002	自助・共助を主体とした地域防災力の強化		内線番号	4506	
予算科目目	会計	一般会計		事業期間	単年度のみ	
	款	09	消防費		単年度繰返(開始年度 ~)	
	項	01	消防費		期間限定複数年度(~)	
目	目	01	常備消防費	根拠法令・条例等		
	評価区分	標準評価	評価対象	1次評価	関連計画	

2. 事務事業の概要・目的・指標<Do>

(1) 事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細を記述)
 幼少年消防クラブは、霧島市における幼児、児童の防火意識を高めるとともに、保育士及び教諭の意識向上のための研修、会員相互の連絡、協調、親睦を目的としています。
 幼少年消防クラブは33団体、クラブ員及びその指導者1,741名で、内訳は、幼年消防クラブ、28団体、クラブ員及びその指導者1,521名、少年消防クラブ5団体、クラブ員及びその指導者221名で構成されています。
 鹿児島県の主催する少年消防クラブ研修と当局で行う研修に参加し防火防災意識の高揚を図ります。
 毎年、11月に消防局を1日開放し市民に対して防災意識の高揚を図るためのイベント「消防フェスタINきりしま」を実施しており、各クラブに対し参加依頼して、園児に1日局長の委嘱やクラブ員による演技等の披露を行っています。
 市内の小・中学校生を対象にした防火ポスター展(11月)、防火書道展(3月)に協力しています。
 地域の社会福祉施設等を慰問して防火の呼びかけや消防団員と協力して校区内の夜回り、火災予防広報を行っています。

活動指標(事務事業の活動量)	単位	平成30年度(実績)	平成31年度(見込)	令和2年度(見込)	令和3年度(見込)
ア 研修会の回数	回	3	3	3	3
イ 研修会の参加人員	人	297	300	218	300
ウ 防火ポスター展、防火書道展の実施回数	回	2	2	2	2

(2) 事務事業の目的

対象(誰、何を対象にしているのか)	対象指標(左記対象の大きさを表す指標)	単位	平成30年度(実績)	平成31年度(見込)	令和2年度(見込)	令和3年度(見込)
ア 幼少年消防クラブ	クラブ数	団体	32	32	33	33
イ 幼少年消防クラブ員及びその指導者	クラブ員数及びその指導者数	人	1,720	2,100	1,741	2,100
ウ						

意図(対象をどうしたいのか)	成果指標(左記意図の達成度を表す指標)	単位	平成30年度(実績)	平成31年度(目標)	令和2年度(目標)	令和3年度(目標)
ア 防火意識が身に付く	防火の呼びかけ、校区内の防火夜回り実施クラブ数	団体	7	8	5	8
イ 防火意識が身に付く	防火ポスター展・防火書道展の出品数	品	364	370	429	375
ウ						

(3) 総合計画との関係

基本事業の目的、取組方針(総合計画より)
 地域の連帯感や防災意識の高揚を図るため、出前講座や防災訓練等を通じて、子どもを含む幅広い年齢層に対して、災害時の対応行動や防災知識の普及啓発を行うなど、防災対策の充実を図ります。
 また、消防団員の高齢化等に伴い、消防団員の確保が喫緊の課題となっていることから、特に、若者や女性の消防団への加入促進等を通じ、担い手の確保と消防団活動の活性化を図ります。
 さらに、がけ地に近接するなど、危険な場所にある住宅の移転促進を図るため、移転に関する支援制度の周知に努めます。

3. 前年度の評価表に記載した課題

平成31年度の改善改革の内容(取り組むべき課題)
 クラブ数及びクラブ員の拡大
 防火の呼びかけ等、防火啓発活動の実施回数を増やし、市民への防火意識の向上に努めていく
 防火意識の高いクラブ員育成のため、各研修の参加者増員となる取り組み
 子どもに正しい指導、育成ができる様に指導者向けの研修等を実施する。

4. 事業費の推移

事業費	単位	30年度決算	31年度		2年度当初予算	3年度計画
			当初予算	決算		
国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
県支出金	千円	0	0	0	0	0
地方債	千円	0	0	0	0	0
その他	千円	0	0	0	0	0
一般財源	千円	164	167	164	167	167
事業費	千円	164	167	164	167	167

5. 平成31年度の実績及び成果

(1) 平成31年度の実績(取組) <取組内容を数値等により具体的に記載>	(2) 平成31年度の成果 <左記の実績(取組)による成果を記載>
防火ポスター展を実施し、市内の小学校19校から139作品、中学校3校から14作品の出品がありました。 防火書道展を実施し、市内の小学校24校から276作品、中学校5校から28作品の出品がありました。 毎年、消防局で行われる「消防フェスタINきりしま」に市内の幼稚園・保育園・小学校から191名が参加し、演技等を披露しました。 防火の呼びかけや消防団員と協力して校区内の夜回り、防火の呼びかけを5クラブが実施しました。 消防局内で開催した少年消防クラブ研修を2回実施クラブ員28名が参加しました。	防火ポスター展及び防火書道展は、多数の出品があり、防火意識の高揚が図れました。 消防フェスタへ参加し、各協力機関のブースの見学や日頃体験できない煙道体験及び災害現場の写真等を見ることにより防火意識の高揚が図れ、消防行政に対しより関心を持ってもらえました。 防火の呼びかけ、夜回りにより、地域住民への防火啓発ができました。 消防局内で少年消防クラブ研修を開催することにより、防火防災の意識の高揚とクラブ員相互の親睦が図れました。

事務事業 番号	02188	事務 事業名	幼少年消防クラブ連絡協議会運営事業	担当部	
				担当課	消防本部予防課

6. 振り返り <SEE (check) >		
A 目的 妥当 性	この事業の目的は、基本事業の目的、取組方針に結びついていますか？	・この事業をなぜ市が行わなければならないですか？ ・税金を投入して達成する目的ですか？
	結びついている	市が実施すべき事業又は実施しなければならない事業である
	間接的に結びついている	市が実施することは妥当である
	結びついていない	見直す必要がある
B 有効 性	成果が向上する余地（可能性）はありませんか？	廃止・休止の影響はありませんか？
	向上する余地はかなりある	影響がある
	向上する余地はある程度ある	影響はある程度ある
	向上する余地はほとんどない	影響はほとんどない
C 効率 性	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、事業費を削減できませんか？ ・補助金など、交付先に働きかけて、市の負担を削減できませんか？	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、人件費（延べ業務時間）を削減できませんか？ ・職員以外の対応や委託により人件費を削減できませんか？
	削減できない	削減できない
	削減する余地はある程度ある	削減する余地はある程度ある
	削減できる	削減できる
D 公平 性	事務事業の内容が一部の受益者に偏っていませんか？ また、受益者負担の公平性が確保されていますか？	
	公平・公正である	
	見直す必要がある	
総合評価判定基準		総合評価
A:継続して取り組むことが適当（やり方改善含む。） B:事業規模・内容・実施主体の見直しの検討 C:事業の統合、休・廃止の検討		A
		理由 地域住民の防火・防災の意識向上のため、幼少の頃から知識を身につけ地域貢献・防火・防災に役立つ人材育成をする必要がある。また、幼少年の地域とのふれあいの場を作り、若い市民から高齢の市民までが一つとなり災害に強い町づくりが形成されることにつながる。

7. 1次評価結果 <PLAN (Action - Plan) > (組織決定)		【参考】前年度の改革改善の方向性 << 継続・やり方改善 >>			
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の事業(成果)の方向性	拡充			
		維持		レ	
		縮小			
	休廃止(統合含む)				
		皆減	縮小	維持	拡大
		コスト投入(予算)の方向性			
(2) 令和2年度の改革改善の内容(取り組むべき課題)	クラブ数、クラブ員の拡大 防火の呼びかけ、夜警など前年に比べ減少したため実施回数を増やし、地域住民の防火意識の向上に努める。 児童のみでなく指導する大人の研修や、参加人員の増加をめざす。				
(3) 令和3年度の方向性(具体的な取組)	幼少年消防クラブの活動等を市民にPRしていく。 幼少年のみの防火意識の向上だけではなく指導する大人の意識向上をはかるため、研修、会員の親睦等を工夫し、参加者が増えるように取り組む。				

8. 2次評価結果(担当部長評価)		評価者	職・氏名
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の事業(成果)の方向性	拡充	
		維持	
		縮小	
	休廃止(統合含む)		
		皆減	縮小 維持 拡大
		コスト投入(予算)の方向性	
(2) 総評			

